

ウイズコロナ時代における暮らし 賀来満夫さんと語る

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、変異株の確認や感染急拡大等により市民生活や社会経済活動が大きな影響を受ける一方で、ワクチン接種が進むなどし、その対応は新たな段階に入りました。今回は、大分出身で感染症対策の第一人者である賀来満夫先生をゲストにお迎えし、新型コロナウイルス感染症対策の今後やウイズコロナ時代における暮らしについて語っていただきました。

コーディネーター 財前真由美(フリーアナウンサー)



【撮影場所】大分市美術館内レストラン「Art×Tableいろのわ」

昨年私たちの生活は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けました。市における新型コロナウイルス感染症の現状を教えてください。

市長 全国の第4波、第5波と合わせて本市でも多くの人が陽性になりました。最も陽性者が多かったのは、市では8月20日の118人、県全体では8月21日の215人です。この間二度にわたり県は感染状況の評価をステージ3に引き上げ、飲食店に夜9時までの時短営業をお願いするとともに、市においてもさまざまな取り組みを行いました。

議長 私は長年消防団活動に関わってきました。市民の安全を守るための訓練を含めて活動ができておらず、技術の維持が困難になることや団員の士気への影響が懸念されていました。

また、学校が休校になった際はお子さんの居場所を確保するため、「児童育成クラブは何とか続けてほしい」と要望がありましたし、企業や市民、各団体の皆さんからたくさん声が届きました。特にワクチンや感染状況などに関するものが多く、その都度、保健所に確認して対応方法などを皆さんへお伝えしていました。正しい情報が行き渡らないことが一番の不安ですから、佐藤市長には感染状況や施策について、積極的な情報発信をお願いしました。

賀来 昨年を振り返ると、医療現場も学校も家庭も、あらゆる場所で情報が混乱して

いたと思います。だからこそ、情報の共有には人と人とのコミュニケーションが非常に大事だと改めて感じました。メディアが伝える情報に対して、何か聞きたくても直接聞くことは難しいです。市長がどのような施策を行っているか積極的に情報発信を行い、地域社会の代表者である議員が皆さんの生の声を聞き、自らの声で「ホームページに載っているよ」「このような方向性で行くと思うよ」と伝える、双方向の情報共有が大切ですね。

医療・検査、ワクチン接種で 市内の感染拡大を防ぐ

これまでの市の感染防止における医療・検査体制について教えてください。

市長 一昨年は大分城址公園の中に「大分市PCRステーション」を設け、検査が的確に受けられる体制をつくりました。昨年は新たな水際対策として、連休前の4月29日にJR大分駅前に抗原検査センターを設置し、市外から訪れる人に検査を受けていただき市内への感染拡大を防ぐ対策を行いました。その後、市民の皆さんが誰でも検査を受けられる体制を整えました。

また、第5波ピーク時には、植田と鶴崎、明野の3カ所に抗原検査センター出張所を

抗原検査センターと出張所合わせて約23万人が検査を受け、そのうち290人に陽性反応がありました。水際対策として、蔓延防止する一定の効果があったのではないかと思います。

市におけるワクチン接種についてはいかがですか。

市長 全国で医療従事者や基礎疾患のある人には先行して接種を進めていましたが、本市でも5月から一般市民へ接種を始めた。11月末段階で12歳以上の接種対象者のうち2回目の接種を終えた人は80%を超えています。

また、「OITAサイクルフェス!!!2021」や「スポーツ・オブ・ハート2021」などのイベント開催時においてワクチン接種や抗原検査を済ませている人は道場で観戦できるようにするなど、イベント参加者の安全・安心を高めるとともに、ワクチン接種のインセンティブ(動機付け)を高める取り組みとして「大分市ワクチン・検査チェック」を導入しました。1月9日(日)に開催する成人記念集会でもこの「大分市ワクチン・検査チェック」の取り組みを行いますので、ご協力をお願いします。

賀来 感染症は診断が基本であり、新型コロナウイルス感染症にかかっているかどうかを早く知ることが重要ですから、抗原検

新型コロナウイルスPCR検査等陽性者数の推移

